

社会科学学習指導案

指導者 神野 若菜

日時 令和4年7月1日(金) 第1校時(8:45~9:35)
年組 中学校第1学年1組 計40名(男子15名,女子25名)
場所 1年1組教室
題材 世界の諸地域 ヨーロッパ州一国どうしの統合による変化ー ヨーロッパ統合の動き
題材について

本題材は、中学校学習指導要領(平成29年告示)社会地理的分野の内容B世界の様々な地域(2)②ヨーロッパにおいて、EUが成立し、ヨーロッパがどのように変化したかについて学ぶ学習である。通常は、世界の諸地域を州ごとに見ていくときはアジア州から始めるが、あえてヨーロッパ州を最初に学習し、アジア州は最後に学習することにした。そのような構成にした理由は2点ある。1点目は私たちが暮らすアジア州はその他すべての州について学んだうえで学習することによって、アジア州が持つ特徴や課題を他州と比較しながら理解することが効果的ではないかと考えたからである。2点目は昨今のヨーロッパ情勢に関心を持っている生徒もいるため、早い段階でヨーロッパを学習することによって、生徒の見方や考え方を深いものにしたいと考えたからである。

本授業で扱うEUについては、昨今のイギリスの離脱などでうまくまとまることができていない印象を生徒は抱いていると思われる。そこで、異なる国同士が一つにまとまるという試みを通じてヨーロッパがどう変化したのかということ、なるべく身近に学ぶことができる授業を目指している。

生徒はEUについては日々のニュースなどで知っている生徒もいるが、なぜ成立したのか、成立したことによって何が変わったのかについてはあまり知らないと思われる。本学級の生徒は、日々の授業にも前向きに取り組み、新たな発見に対しては素直な反応を見せるなど、社会科を積極的に学ぼうとする姿勢が見られる。一方で、全体的に世界の見方の視野が狭く、発表するのは限られた生徒であり、地理的分野に苦手意識を持っている生徒や、なかなか集中力が続かない生徒もいる。そうした生徒にも日本との違いを理解することができる活動を通じて、EUに対しての興味関心を引き出したい。

指導にあたっては、まず初めに言語に焦点を当てた導入を行うことで、異なる多数の民族同士で一つにまとまることの困難さに気づかせたい。そのためにも生徒に身近なところから理解してもらうために日本の方言を使った導入を行う。また、行ったことのないヨーロッパについての学習になるため、写真などを取り入れて学習を進めていく。知識・技能については、EUが誕生したことによってヨーロッパの国どうしの変化の具体的な事例について理解させる。思考・判断・表現については、EUの共通通貨や国境の自由化などの例を挙げ変化を認識させ、EUに潜む課題にも気づかせたうえで、「ヨーロッパは一つにまとまることができていると言えるのか」について考察させたい。

学習目標

- ・ヨーロッパ統合が進んだ理由や統合の具体的な事例について理解することができる。
- ・EUによるヨーロッパの強みや課題を理解することができた例えを考えることができる。
- ・統合によって、ヨーロッパがまとまることができているのかについて考察することができる。

指導計画

1. ヨーロッパ州をながめて・・・1時間目
2. ヨーロッパ統合の動き・・・本時
3. 持続可能な社会に向けて・・・3時間目
4. EUが抱える課題・・・4時間目

本時の目標

EUの成立によって、ヨーロッパは一つにまとまることができるのか、考えることができる。

学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
<p>1. 導入（10分）</p> <p>□日本の各地の方言を紹介し、発音する。</p> <p>□同じ国の言葉でも意思疎通の難しさがある中、異なる言語を話すヨーロッパに注目する。</p>	<p>○日本各地の「ありがとう」を紹介し、同じ日本の中でも言葉が違うことに気付かせる。そして国や言語が異なるヨーロッパにおける「統合」の難しさを伝える。</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本国内で標準語がなければ意思疎通が難しい ・ヨーロッパの言語も決して似ているとは言い切れない
<p>【課題】 EUの成立によって、ヨーロッパは一つにまとまることができるのだろうか？</p>	
<p>2. 展開（35分）</p> <p>□なぜ国同士で言語も文化も違う中、ヨーロッパはまとまろうとしたのか？</p> <ol style="list-style-type: none"> ① EU成立までの経緯 ② EU加盟国の拡大 <p>□まとまるために、実際にどのような取り組みをしているのだろうか？</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 国境の自由化 ② 交通網の発達 ③ 共通通貨ユーロの導入 <p>□こうした取り組みを行うEUを何かにたとえ</p>	<p>○短い映像を見せてEU成立までの経緯を確認し、EU成立の理由について読み取らせ、加盟国について地図で確認する。</p> <p>◆自分で理由をまとめ、相手にわかるように説明することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>○国境の自由化、ユーロスターなどの高速鉄道、ユーロについて例を示しながら、写真などを見せ、EUの取り組みについて理解させる。</p> <p>◆これらの取り組みの中でEU内での人、モノ、お金の移動が活発になったことが理解できる。</p> <p>【知識・技能】</p> <p>○教員は例として「27人28脚」を挙げ、生徒に</p>

<p>ることができないだろうか？ また、その中でうまくいくこと、そうではないこと はないだろうか？</p>	<p>もEUを例えさせる。まずは個人でワークシート に記入させ、近くの人同士で意見交流をさせる。 【予想される生徒の反応】 ・組体操、一つの国、など ・誰かが輪を乱すとまとまるのが難しい、全員 のやる気がないと難しい、自分のことは優先でき ない、など ◆積極的に考え、理由とともにまとめ、相手に説 明することができる。【主体的に学習に取り組む 態度】</p>
<p>3. まとめ（5分） □ヨーロッパは一つにまとまることができてい ると言えるだろうか？</p>	<p>○EUによって人・モノ・お金の移動が活発には なっているが、課題が生じていることに気づか せ、次の授業につなげる。</p>

授業の分析

本題材ではEUが成立したことでヨーロッパは何が変化したのか、そこに潜むEUの課題は何かとい
った内容から、現在のヨーロッパは本当に一つにまとまることができているのかについて、生徒が考察
することに焦点を当てた授業である。EUというものを生徒がどう捉えたのか、またそこに潜む課題は
何かということ認識して現在のヨーロッパについて考察しやすくするために、後半でEUを何かに例
えてみようという活動を取り入れた。

EUを何かに例えるという活動では、生徒はEUを「パズル」「ハチの巣」「毛利元就の三本の矢の教え」
「クラス」など、多様な答えを考えることができていた。また、その中でうまくいくこと、そうでないこ
とについては、小さなものが集まることでより大きなものになるということや、お互いに助け合うこと
ができるということ、一つでも欠けてしまえば成立しているとは言えないのではないかとということ、集
まった者同士で対立が起きてしまったりすれば意見をそろえることが難しく、まとっているとは言えな
いのではないかと、といった意見が多くみられた。このことから、生徒なりに国境を越えて国がまとまるこ
との利点や難しさは認識できていたように考える。

ヨーロッパは一つにまとまることができていると言えるだろうかという問いに対しては、できていな
いと答える生徒が多かった。やはり、EUの課題に対して目を向ける生徒が多く、今後もヨーロッパが一
つにまとまることは難しいのではないかと意見が多かった。実態として、できないと否定的な方向
に考えを持っていく生徒が多いため、生徒には課題に対してどう解決してより良いほうへと導くことが
できるのかといった視点をもつことができるように、今後の授業でも検討していきたい。

今回のヨーロッパの学習も含めて、世界の諸地域の単元では各州がそれぞれ「統合」とはどういう
ことなのかを一つのテーマとして生徒に考察させていきたいと考えている。特に、私たちが暮らすアジ
アでは、アジア連合を作ることは可能かといったことまで踏み込む授業ができることが理想である。そ
のためにヨーロッパ州を最初に学習するようにカリキュラムを作った。しかし、本時で「まとまる」とは

どういう意味なのか、「統合」とは一体何かといった言葉の定義があいまいであったため、基礎的な考えが根付いていない状況で、生徒が「ヨーロッパの統合」について考察することになったという課題があった。そのため、統合の定義をよく理解していない実態も、本時の「ヨーロッパは一つにまとまることができるのか」という問いへの否定的な意見につながり、考察が深まらなかったのではないかと考える。この課題を改善していくために、授業の中で考える内容の軸となる基礎的な考え方や定義を提示する必要があるとわかった。

授業実践を通して、生徒が考えるためのぶれない軸を単元の最初に作り、授業の中ではその軸を何度も確認しながら進めていくことで、今後のグローバル社会の中を多民族と共生しながら生き抜くことができる生徒の育成を目指していきたい。